

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 8月17日

【評価実施概要】

事業所番号	3070101914
法人名	社会福祉法人 安原福祉会
事業所名	あいの里
所在地	和歌山県和歌山市松原306-1 (電 話) 073(479)2500

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年7月17日	評価確定日	平成21年9月3日

【情報提供票より】(平成 21 年 6 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1 人, 常勤換算	5.2 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋スレート葺き 造り		
	平屋	階建ての	1 階 部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4)利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低 76 歳	最高 91 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	寒川内科医院、はぶ内科医院、田井歯科医院、中谷病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

貴志川線岡崎前駅から少し離れた、のどかな田園風景が広がる一角に「グループホームあいの里」が建てられています。同法人のデイサービスセンターや小規模多機能型事業所が隣接し、日常的に交流が深く、行事の際は地域の方々と共に大勢で賑やかに行われています。ホーム内は大変広く、明るく、リビングとスタッフルームが一体的で利用者の様子がよく伺え、玄関、裏口共に開錠され、開放的な雰囲気になっています。相互の関係は良好で、団欒や食事中は笑い声が絶えず聞こえてきます。また、医療連携や入浴設備も整い、常にその方の状態に合った支援がなされ、ホームが目標とする「家庭的な雰囲気の中で健やかで主体的な生活」が実践されています。向上心が高く暖かいケアを行う職員と地域の中で、安穏な暮らしが感じられるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の結果は会議で話し合い、改善点について各項目ごとに改善計画を立てています。同業者との交流や避難訓練の地域への働きかけについて前向きに考え、実現につなげるよう引き続き検討されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票は、会議で評価について意義を話し合いながら、出された職員の意見を管理者が各項目ごとにまとめ、完成したものを全職員に回覧し、確認して作成しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヵ月に1回、家族、地区自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者により開催されています。会議ではホームの現状や行事内容、外部評価等について報告や質疑応答、話し合いがなされ、外部との情報交換の場として、様々な視点からケアを振り返ることのできる会議となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年に2回家族会を開催し、家族同士の意見交換や要望・不満を話しあう機会を設けています。得られた意見等についてはできる限り迅速に応じるよう、ミーティングや会議で話し合い対応策を考え、ケアプランにも反映させています。またホーム玄関に意見箱を設置したり、相談窓口のポスターを見やすい場所に貼るなど、家族が要望を出しやすくする配慮をしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、神社の行事や地域の地区主催の消防訓練に参加したり、近隣の同法人の施設が開催する夏祭りで地域の方との交流を深めています。また、「きしゅう君の家」としてホームを開放し、小学生との関わりの場を持ったり、近所の方から野菜を頂いたり、住民の協力で芋植えを行うなど、地域の中にホームが溶け込み、生活できるよう関係づくりを努めています。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をもとに、入居者本位や地域との関わりを意識したホーム独自の理念をつくりあげ、リビングに掲げています。日々の生活の中でホームのケアについてスタッフ間で確認し合いながら、理念に添った暮らしを提供できる様努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の基本となる「家庭生活の延長である安穩なケア」を継続できるように、職員会議や休憩時間に理念についての具体的なケアについて話し合い、理念が反映されたサービスに職員全員が取り組めるよう努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、神社の行事や地域の地区主催の消防訓練に参加したり、近隣の同法人の施設が開催する夏祭りや地域の方との交流を深めています。また、「きしゅう君の家」としてホームを開放し、小学生との関わるの場を持ったり、近所の住民の協力で芋植えを行うなど、地域の中での生活が自然な形で築かれています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議で評価の意義や自己評価について話し合い、職員の理解や気付きにつなげています。自己評価票は管理者が各項目ごとに意見をまとめ、職員に回覧し確認しています。また、外部評価の結果は家族とケアマネジャーにコピーして送付しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、家族、地区自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者が参加し開催されています。会議ではホームの現状や行事内容、外部評価等について報告や質疑応答、話し合いがなされ、外部との情報交換の場として、様々な視点からケアを振り返ることのできる会議となっています。		

グループホームあいの里

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの現状や外部評価の結果報告、感染症対策の相談、家族との調整機関として、ホーム側より市町村や地域包括支援センターへ積極的に連絡を取り、連携を図っています。将来的に、市町村職員にも運営推進会議に出席して頂けるように働きかけを継続していく意向です。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2～3ヶ月に一度、家族にホーム便りを発行しています。日常的に面会が多く、その都度状況と話したり、変化のあった時は小さな事でも電話で報告するなど、個々への連絡も頻繁に行うよう心がけています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を開催し、家族同士の意見交換や要望・不満を話しあう機会を設けています。得られた意見等についてはできる限り迅速に応じるよう、ミーティングや会議で話し合い対応策を考えています。またホームの玄関に意見箱を設置したり、相談窓口のポスターを貼り、家族が要望を出しやすくするよう配慮しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去一年間は職員の異動や離職はなく、馴染みの関係でのケアが成されています。離職を少なくする為に、管理者が職員への声かけや、シフトの希望を聴くなど、職員のストレスを溜めないよう心がけています。また、職員全員が利用者を含めお互いを受け入れながら、仲良く暮らせるように支援しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、職員の希望を聞き習熟度に応じて参加できる機会を作っています。受講した研修内容は報告書に記録し、職員間で閲覧したり会議で伝達研修を行い、働きながらの職員育成の体制が構築されています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がグループホーム連絡会に参加し意見交換をしたり、研修で他の同業者と会った際に、情報交換をしています。職員の同業者との交流はなされていません。	○	事業所内での意見交換や交流の場は多く設けられていますが、職員の外部の同業者との交流や相互訪問等は、現在も検討段階の様子ですので、今後実現に向かわれることに期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際は、必ずホーム側から家庭訪問して、生活場面での面接で、暮らしぶりや習慣を把握し、継続した生活ができるように配慮しています。入居当初は個別に充分な関わりを行い、本人に寄り添い、傾聴や家族の面会を増やしたり、電話で連絡を取るなどの対応で徐々に安心感を持って生活して頂けるように配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に利用者、職員の隔たりなく、家庭的な雰囲気の中で自然な関係づくりに努めています。家事や育児、昔の話、言葉づかい等、職員が教えて頂くことも日常的に多く、一つの話で会話が広がり、和やかに「お互いが支え合う」関係が築かれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いて本人、家族と面会時に十分にヒアリングを行い、要望や希望を聴き出すよう心がけています。またその本人の意向を大切に、状況の把握がケアに活かされ、常に本人本位のマネジメントになるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの希望は電話や面会時に確実に伺うようにし、主治医や職員全員の意見を聞いてカンファレンスで話し合い、健康・衛生面や安全にも配慮した利用者本位のケアプランが作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングによりケアプランは3ヶ月ごとに見直しを行い家族にも同意を得ています。特別な変化が生じた場合は、その都度家族や主治医に相談し、現状に即した新たな計画を作成しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添い、買い物、デイサービスのレクリエーションや趣味活動の参加等希望により個別に対応しています。ホームでの訪問理美容も希望により提供しています。また、利用者が希望される医療機関に必要時に往診して頂けるよう、ホームよりアプローチを行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の希望を聞いてかかりつけ医を決定し、ホームのかかりつけ医以外の医療機関の受け入れも積極的に行っています。ホームのかかりつけ医による往診は月に2回あり、緊急時に対応可能で、24時間連絡が取れる体制にあります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の対応について入居時に家族と方針を説明し、同意を交わすようになっています。重度化した場合は早期の段階で主治医も含めて相談する機会を設け、終末期ケアの在り方について、会議等で話し合い、職員間で方針の共有を進めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人一人の人格を尊重することや自尊心を傷つけない対応について十分理解し注意してケアに取り組んでいます。特に呼び方や排泄持の声かけには配慮するよう心がけています。記録物等の個人情報については鍵のかかる書庫に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はありますが、起床や朝食時間、入浴時間等は自由になっており、利用者個人のペースで希望に合った生活を支援しています。場面場面で意志を確認しながら、趣味や役割、楽しみごとの支援を行い、本人の状態に配慮しながら安穏な生活の提供に努めています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞きながら、その日に決めています。調理にあたっては旬の食材を使い季節感を味わったり、一緒に下ごしらえや盛り付け等を行っています。職員も利用者と同じものを同じ食卓で摂り、会話が弾んだ楽しく明るい食事の雰囲気になっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝からの夕方までの自由な時間帯となっていますが、その方の希望に合わせ、夜間入浴や好みの温度調節も行っています。体調不良や入浴拒否の際にはシャワー浴や清拭で対応しています。特浴やシャワー浴の設備が整っており、その方の状態に合わせた無理のない入浴支援がなされています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、掃除、洗濯、洗濯物たたみなど、個人のできる家事を役割として支援したり、折り紙、歌など趣味や好みのレクリエーションや行事に参加する機会をつくり、日々の生活の中に個々の生活歴を活かした様々な楽しみ事を盛り込むよう配慮しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や買い物、ドライブ、外食等、利用者の希望に添ってできるだけ外出の機会を増やせるよう支援しています。体調や天候の不良で、外出が難しい時は、玄関の椅子に座ってゆったりと外を眺めるなど、気分転換を図っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は施錠についての弊害を理解し、見守りを徹底により、日中は玄関、裏口にも鍵をかけず、閉塞感のない自由な暮らしを支援しています。出掛けようとする利用者がおられた時は、他の利用者が知らせてくれる事もあり、職員と一緒に付き添って散歩に出掛け、気持ちを満たすように心掛けています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署立ち会いのもと、昼夜を想定した避難訓練を行い、地域の小学校での防災訓練にも参加しています。今後は運営推進会議を通して地域の方へ避難訓練への参加依頼や、協力の呼びかけを行う予定です。	○	地域の防災訓練の参加から、地域の方に協力して頂けるホームの訓練へと進める働きかけを行い、改善計画の内容を早期に実現できることを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、必要な方の水分量は介護チェックシートに記載され、全職員が把握しています。また個々の体調に考慮し、低カロリーやミキサー、とろみ食等の調理法も工夫して提供しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓のリビングは、明るく、広々とゆったりした開放感が感じられます。テーブルや壁には季節の花や絵が飾られ、生活感と季節のある居心地の良い暮らしを提供できるように工夫されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は椅子、机、鏡台、たんす、家族の写真、仏壇など、それぞれが使い慣れた家具や道具を家族に協力を得て持ち込んでもらっています。また各居室には洗面台、エアコンが設置され、その方の状態や希望の室温に合わせ、居心地良く安心した暮らしを提供するよう配慮しています。		